

< A 表現 >

(3) 創作の活動を通して

* 中学校学習指導要領「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」より

- (5) 創作の指導については、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。その際、理論に偏らないようにするとともに、必要に応じて作品を記録する方法を工夫させること。

第1学年 A 表現 (3) 創作

題材名「言葉と音楽」 教材名「旋律づくり」

【第1学年の目標】

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を育てる。
- (3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

【第1学年の創作の指導事項】

ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して旋律をつくること。

イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア

- ・言葉の抑揚やリズムの特徴を生かして、簡単な旋律をつくる。

【学習の流れ（例）】

学 習 の 流 れ (例)	[共通事項]との関連
<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲を付けるための俳句や詩を選び、つくりたい曲のイメージを持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・俳句を一つ選び、「楽しい感じの曲」「ゆったりした感じの曲」など、おおまかなイメージを持つ。 ○ 言葉のまとまり、抑揚やアクセントを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・俳句や詩を言葉のまとまりで分けたり、言葉の抑揚を図に表したりする。 ○ 黒鍵の音から選んで、言葉に音を付けていく。 <ul style="list-style-type: none"> ※鍵盤ハーモニカやキーボードを使用する。 ※小節数や拍子を自由に設定することも考えられる。 ・言葉のまとまりや抑揚、アクセントなど調べたことを基に、音を当てはめていく。(鍵盤ハーモニカを使いながら音を確認する) ・言葉をどのように分けるか考えるとともに、四分音符だけでなく、伸ばす音(二分音符・全音符等)や八分音符の使用など、リズムについても合わせて考える。 ・まとまりのある旋律とする。 ・ワークシート等にイメージや楽譜(楽譜に代わる物)などについて記録を残しておく。(記譜例→p.96 参照) ・可能な場合は、つくった曲に強弱を付ける(ワークシートに書き込む)。 ・楽器で音を確認するだけでなく、時々には実際に歌ってみることで、歌いにくい部分がないか、初めに持ったイメージに合っているか等について確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> リズム 構成 フレーズ 拍子 強弱

<p>○ つくった曲を紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体または小グループの中で自分の曲を歌って紹介する。 ・紹介するときは、曲のイメージや工夫した点などを伝える。 ・発表やワークシートにお互い感想を書き込むことで、曲のよさや更に工夫するとよい点などを伝え合う。 	
---	--

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の抑揚やリズム、曲のイメージに合うように、音を選んだりリズムを考えたりするなど、イメージと音や構成を結び付けることに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の抑揚に合わせて音を選んだり、リズム、速度、旋律、強弱、構成などを知覚しながら、自分のイメージに合うようにそれらの組合せを工夫したりして、思いや意図を表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の抑揚に合わせた音の選択、リズム、速度、旋律、強弱、構成、記譜の仕方など、音楽表現をするために必要な技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。

～小学校における「創作」～

小学校では、「創作」は「音楽づくり」として示され、『児童が自らの感性や創造性を発揮しながら自分にとって価値のある音楽をつくること』と定義されています。そして音楽づくりのための発想を持ち即興的に表現する能力や音を音楽に構成する能力を育てることが指導のねらいとなっています。当然、低学年・中学年・高学年とそれぞれの発達段階において経験を積み上げてくるわけですが、低学年の「音遊び」のように音や声そのものを楽しむことから始まり、少しずつ「これらの音をこうしたら音楽になるかな」といった考えを持って取り組ませていきます。また、記譜を工夫するなどしてある程度同じものを再現可能にすることが前提ですが、つくった音や音楽を即興的に表現することも大切にされています。

高学年では、それまでに経験してきた歌唱・器楽・鑑賞などの様々な音楽活動を基に、自分が音楽づくりで役立てられるような発想を得たり、表現に生かす方法を考えたりします。さらに、つくる音楽に対して明確な考えや意図を持たせ、その実現に必要な音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを選んだり組み合わせたりして、まとまりのある音楽となるように指導していくことになります。

中学校（第1学年）では、より発展して音楽を形づくっている要素との関わりや音のつながり方を考えたり、反復や変化などといった音楽の構成原理を意識して音楽をつくったりすることが求められるようになります。どの学習でも同じですが、小学校でどの程度「音楽づくり」を経験しているかを把握し、生徒の実態に合った教材となるよう題材構成を工夫していきましょう。

第1学年 A 表現 (3) 創作

題材名「情景を音楽で表そう」

教材名「『魔王』～1分間のショートストーリー～」

【第1学年の目標】

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を育てる。
- (3) 多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

【第1学年の創作の指導事項】

ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して旋律をつくること。

イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → イ

- ・同じ楽器でも、演奏の仕方や音の高低によって音の質感が変わり、イメージに合った音をつくり出すことができることに気付く。
- ・音の高低やリズム、強弱、速度といった音楽を形づくっている要素に働き掛けたり、構成を工夫したりすることによって、場面に合う音楽をつくらうとする。

《題材を設定するに当たって》

ゲーテ作詞、シューベルト作曲の「魔王」を、歌詞やセリフ無しで音楽だけで表現していき、1分間という限られた時間の中で「魔王」の物語のダイジェスト版をつくる活動を行う。

不気味な夜、馬に乗っている親子、泣き叫ぶ子、甘くささやきかけてくる魔王、本性を表し子連れ去ってしまう魔王、ついに死んでしまった子など、特徴的な場面を今回は楽器の音だけで表現していく。ナレーションや台詞など、言葉を使って場面を表し、その効果音として演奏するのではなく、音や音楽だけで「魔王」の情景や登場人物の心情を表現していく。あらかじめ三つの場面を設定することによって、音高、リズム、強弱、速度といった音楽を形づくっている要素に働き掛け、情景や心理状態の違いを表せることに気付くだろう。また、1分間という短い間に「魔王」のストーリーを凝縮し、父・子・魔王の掛け合いやそれぞれの心理状態を表現するためにはテクスチュアを工夫したり構成を工夫したりすることも必要となるだろう。小学校でも情景を音楽で表す活動は行われているが、本題材では、できるだけ直接的な表現（馬の走る音をタッタカタッタカで表すなど）をせずに、その場面の雰囲気や心理状態を表すようにしたい。限られた時間の中で、イメージを音にしたり構成を工夫したりして、楽器だけで一つの作品をつくりあげる楽しさを実感させたい。

なお、本事例は、鑑賞と創作を組み合わせた題材を構成し、鑑賞で扱う〔共通事項〕を創作にも生かせるような鑑賞活動を行うことを前提としている。鑑賞において、音色、旋律、リズム、速度、強弱といった音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴く活動を十分行い、創作活動につなげたい。

また、ヴィヴァルディの『四季』等で「ソネットと音楽との関わり」を学習していれば、詩の様子をどのように音楽で表現していたか想起し、学びをつなげることで、本題材のねらいがさらに深まることが期待できる。

【学習の流れ（例）】

学 習 の 流 れ （例）		〔共通事項〕との関連				
<p>○ 「魔王」を聴き、鑑賞で学習したことを想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 役柄によって歌い方や音の高さが違っていたな。 ・ 子どもは少しずつ音を高くしていくことによって、恐ろしさが増している様子を表していたな。 ・ 伴奏は馬が駆けている様子や風の音をリズムや音の動きで表していたな。 <p>○ 「魔王」のストーリーを確認し、次の三つの場面を鍵盤楽器とリコーダー類のみをつかって約1分間で表現していくことを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 風の夜に馬を走らせている父と子がいる。 (2) 魔王が声を掛け、子どもは恐怖におののく。 (3) やつとこのことで宿についたが、子どもは既に亡くなっていた。 <p>○ 役割を決め、その役割や場面に合う音素材や主題、構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各役柄や情景、状況を表す楽器（音素材）を考えたり、短いテーマやモチーフを考えたりする。 ・ 楽器（音素材）の特徴を感じ取り、テーマやモチーフの表現の仕方（音の高低、リズム、速度、強弱）を工夫したり、反復、変化、対照などの構成を工夫したりしながら、それぞれの場面に合った音楽をつくっていく。 ・ ワークシートに1分間という時間の流れの中で、それぞれの役割と表現の仕方を考え、一つの作品として構成していく。 <p>※即興的に音を出しながら音楽作品にしていく。(効果音に留まらないようにする)</p>		<p>音色 旋律 リズム 速度 強弱 テクスチャ</p>				
【例】	0:00~	0:10~	0:20~	0:30~	0:40~	0:50~
父（マリンバ）		低音で遅めに、四分音符で徐々に音上昇			<i>accel.</i>	<i>rit.</i>
子（SR）		ラーシ遅く	シドシド	ドレドレ	ミファミファ～	<i>pp</i>
魔王（ピアノ）			高音明るく	中音明るく	低音暗く強	
馬（SD） 風（BD+Cym）	枠打 <i>pp</i> < □-ル < >	<i>mp</i> 時々面 を強く□-ル	魔王の時は 馬は無し	風と馬の音 を交互に	—————→	<i>rit.</i> > <i>pp</i>
<p>○ 他のグループと交流しながら、どんな場面を表現しているかお互いに聴き合い、アドバイスし合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三つの場面の変わり目に着目して聴くなど、工夫して良いと感じたところを伝え合いながら、自分たちの表現を高めていく。 <p>○ 発表会を行う。</p>						

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 音素材の特徴やモチーフの反復、変化、対照などの構成に関心を持ち、音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音色、旋律、リズム、速度、強弱、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージを持ち、音素材の特徴を感じ取ってモチーフの反復、変化、対照などの構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音素材の特徴、モチーフの反復、変化、対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。

第2学年 A 表現 (3) 創作

題材名「リズムの重ね方を工夫しよう」 教材名「ボイスアンサンブル」

【第2学年及び第3学年の目標】

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- (3) 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第2学年及び第3学年の創作の指導事項】

- ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。
- イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → イ

- ・言葉をリズムにのせ、そのリズムを反復・変化させるなど構成を工夫して音楽をつくる。
- ・リズムの組合せや各声部の重ね方を工夫しながら、ボイスアンサンブルの面白さを追究する。

【学習の流れ (例)】

学 習 の 流 れ (例)	〔共通事項〕との関連
<p>○ 既製の曲や簡易な曲（教師の自作曲）の歌唱表現を通して、ボイスアンサンブルの存在を知ったり親しんだりする。</p> <p>○ 身近な言葉にリズムを付けてリズム遊びを楽しむ。</p> <p>・リズム（音符）を提示して、そのリズムに当てはまる言葉を探す。</p> <p>例) →スポーツ →オットセイ</p> <p>・言葉を提示して、その言葉に合うリズムを付け、音符や表に書き表す。</p> <p>例) </p> <p>・教師と生徒や生徒同士で、リズムボックスなどのビートにのりながら、同じ言葉や違う言葉をコール&レスポンスしたり同時に発したりしながらリズム遊びを行う。</p> <p>例) 拍：◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ T：みしま・ S：みしま・ T：ぬまづ・ S：ぬまづ・ T：はら・ はら・ S：はら・ はら・ S1：ふーじ・ しんぶんじ・ S2：しずおか・ ひがし ・ ひがししずおか・</p>	<p>リズム</p> <p>リズム テクスチャ</p>

※それぞれC&Rでリズムを取った後、同時に発したり、交互に発したりしながらリズムの掛け合いや重なり合いを楽しむ。

<p>○ 小集団でテーマを決め、そのテーマに関係する言葉を選び、リズムを付けていく。単語や短文などリズムを付けやすく、自分たちで歌唱表現が可能な程度の言葉にしておく。</p> <p>例) テーマ「夏」…うみ プール かき氷 花火 中体連 夏季講習 テーマ「夏」…海に行き 波にもまれて ぐちゃぐちゃに 中体連 暑くて 辛くて でも勝った 優勝だあ</p> <p>○ 拍子を決め、冒頭－中間－終末をどのような感じにしていっておおまかなイメージを相談しながら演奏進行表に各声部の担当箇所を決めていく。 (演奏進行表の例)</p>	<p>リズム</p> <p>リズム テクスチャ 構成</p>																												
<table border="1"> <tr> <td>うみ</td> <td>うみ</td> <td>うみ</td> <td>うみ</td> <td>Woo-</td> <td>夏</td> <td>うみ</td> </tr> <tr> <td>プール</td> <td>プール</td> <td>プール</td> <td>プール</td> <td>Woo-</td> <td>夏</td> <td></td> </tr> <tr> <td>かき氷</td> <td>かき氷</td> <td>かき氷</td> <td>かき氷</td> <td>Woo-</td> <td>夏</td> <td></td> </tr> <tr> <td>花火</td> <td>花火</td> <td>花火</td> <td>花火</td> <td>Woo-</td> <td>夏</td> <td>花火</td> </tr> </table>		うみ	うみ	うみ	うみ	Woo-	夏	うみ	プール	プール	プール	プール	Woo-	夏		かき氷	かき氷	かき氷	かき氷	Woo-	夏		花火	花火	花火	花火	Woo-	夏	花火
うみ	うみ	うみ	うみ	Woo-	夏	うみ																							
プール	プール	プール	プール	Woo-	夏																								
かき氷	かき氷	かき氷	かき氷	Woo-	夏																								
花火	花火	花火	花火	Woo-	夏	花火																							
<p>※各声部の重ね方や全体の構成が小集団の中で共通理解でき、記録に残すことで、いつでもどこでも再現性のある表を作っていく。表の書き方は、例のように数字や記号、言葉、音符など、自分たちが書きやすく見やすいものになるよう工夫する。</p> <p>○ 実際に歌って試しながら、リズムの掛け合いや重なり方を工夫したり、ユニゾン（同じ言葉を発する箇所）を意図的に入れたりして、全体のまとまりや流れを考えて作品をつくっていく。</p> <p>○ 強弱、速度などを工夫し、自分たちのイメージに合った音楽にしていこう。また、中間発表などを行い、相互評価しながら自分たちのボイスアンサンブルがより面白くなるよう工夫していく。</p>		<p>リズム テクスチャ 構成</p> <p>強弱 速度</p>																											

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> 言葉によるリズムの特徴、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに関心を持ち、それらを生かし音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> リズム、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージを持ち、言葉によるリズムの特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉によるリズムの特徴、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要なリズムづくりや各声部の組合せ方の技能を身に付けて音楽をつくっている。

「創作における記譜」について

- つくった音楽を、五線譜だけではなく、文字、絵、図、記号、コンピュータなどを用いてどのように記録するかについて工夫させることも大切である。 中学校学習指導要領解説 音楽編 p. 64
- 記譜の指導に当たっては、視唱や視奏の活動において、つくった音楽を必要に応じて視覚的にとらえたり、その音楽を再現したりする手掛かりとなるよう記譜の仕方を工夫するようにする。その場合、絵譜やグラフィックによるものなど、児童の実態や活動の内容に応じて工夫するようにする。 小学校学習指導要領解説 音楽編 p. 75

第3学年 A 表現 (3) 創作

題材名「古都(こと)を訪ねて」 教材名「修学旅行記 箏集編」

【第2学年及び第3学年の目標】

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- (3) 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

【第2学年及び第3学年の創作の指導事項】

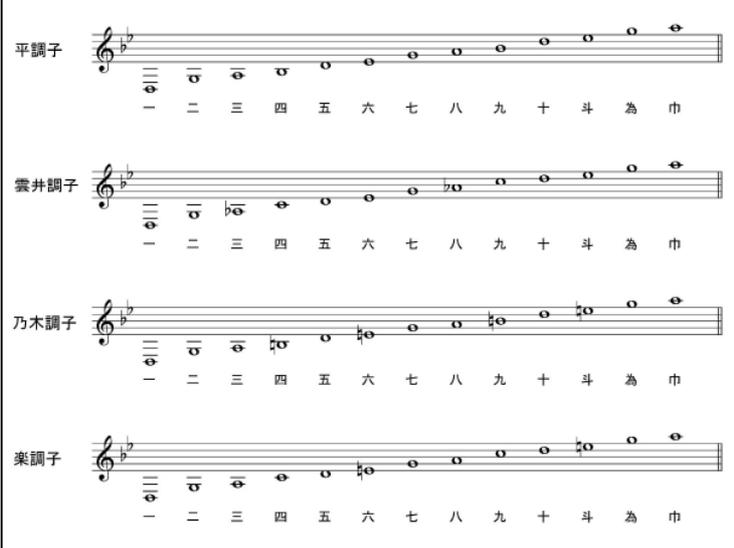
- ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。
- イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア

- ・いろいろな箏の調弦の特徴を生かして、自分のイメージに合った旋律をつくる。
- ・器楽表現で身に付けた箏のいろいろな奏法を創作に生かし、自分のイメージに近づけていく。

【学習の流れ (例)】

学 習 の 流 れ (例)	〔共通事項〕との関連
<p>※このような題材を修学旅行後に行うということを年間指導計画に位置付け、1年次より箏に触れたり様々な奏法を身に付けたりして、箏の魅力を生かした創作がスムーズに行えるよう、系統的に取り組みたい。</p> <p>○ 「さくらさくら」を各調子（平調子・雲井調子・乃木調子・楽調子など）に調弦した箏で演奏したり聴いたりして、それぞれの違いを感受する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さくらさくら」を各調子に調弦した箏で演奏したり聴いたりしながら、それぞれの違いを感受する。 ・各調子の構成音を聴いたり五線譜で見たりして、その違いを知る。 ・各調子で演奏される曲を聴き、各調子の雰囲気を感じ取る。 <p>例) 平調子：うさぎ、荒城の月 など 雲井調子：五木の子守歌 など 乃木調子：花笠音頭 など 楽調子：こきりこ節 など</p>	<p style="text-align: center;">音階</p> 

<p>○ 箏で表現する修学旅行の場面や場所などを考えながら、どの調子で音楽をつくっていくかを決める。グループで行う場合には、班別研修等のコースを分担して表現し、思い出を音楽で綴っていく。</p> <p>例) 金閣寺 → 豪華^{びんがら}絢爛 → 乃木調子で明るく</p> <p>銀閣寺 → 地味・渋い → 平調子の落ち着いた音で 楽しい部屋での生活のはずが… → 楽調子から雲井調子へ</p> <p>※思い出に残った情景をひとつに絞って、そのイメージを音楽で表現したり、ストーリー性を持たせて修学旅行記のBGMとして表現したりするなど、生徒の実態に応じて設定する。</p> <p>○ 約束事を決め、即興的に音を出しながら旋律をつくる。その際、縦書きの楽譜（家庭式縦譜）に書き留めておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4分の4拍子で、8小節分、細かな音符は八分音符までとするなど、家庭式縦譜に記譜しやすいような約束事を決めておく。 ・ 選んだ調子の雰囲気を生かすためにはどのようにしたらよいか工夫する。 <p>○ ピッツィカートや流し爪、トレモロなど、いろいろな奏法を取り入れて、より豊かな箏の表現を工夫する。</p> <p>※各調子の雰囲気を出すには、いろいろな弦に跳ぶよりも、隣りあった弦の音をつなぐ方がよいことを知覚したり、奏法や音域による雰囲気の違いを感受したりして、自分(たち)のイメージに近づけられるよう試行錯誤させたい。</p> <p>○ イメージにあった音楽になっているか、調子を生かした音楽になっているかといった視点を明確にしなが、互いに聴き合う活動を通して、よりよい作品づくりを行う。</p>	<p>音階 旋律 リズム 構成</p> <p>音色</p>
---	---

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>・ 箏の各調子の構成音によって生み出される独特な雰囲気に関心を持ち、それらを生かし音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>・ 旋律、リズム、構成、音色などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、箏の調子や様々な奏法などの特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図を持っている。</p>	<p>・ 箏の各調子の音階などを生かした音楽表現をするために必要な音のつなげ方や縦書き楽譜の記入の仕方などを身に付けて旋律をつくっている。</p>

箏は、いくつもの調弦方法があり、構成音の違いが調子独特の雰囲気を生み出します。平調子の音楽に親しみ、「七七八 七七八〜」と弦を弾けば「さくらさくら」が演奏できると思っている生徒たちには、他の調子による「さくらさくら」は何とも面白い音楽に感じることでしょう。「箏はこのようにして様々な表情の音楽を奏でることができる。」ということも十分味わわせながら、それぞれの特質や雰囲気を知覚・感受し、自分のイメージにぴったりの調子を見つけ創作していく。また、器楽表現で体得したいろいろな奏法のよさを生かしていく。

このような様々な表情の音楽を容易に作曲できることも、箏の素晴らしいところです。

